

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻（D）

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1.（12）医学薬学総合研究科の2専攻（3課程）のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。（改善事項）
・・・・・・・・・・ 2
2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 5
3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第172条の2第1項第4号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」とや同規則第172条の2第1項第6号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。（是正事項）・・・・・・・・・・ 7

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついで、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)

新	旧
(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) ア 生命医療学専攻(博士課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、 <u>レポート</u> 及び <u>研究成果</u> により評価する。 (略)	(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) ア 生命医療学専攻(博士課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及び <u>レポート</u> により評価する。 (略)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15、17 ページ)

新		旧	
<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて</p> <p>ア-1 生命医療学専攻(博士課程)先進医学プログラム</p> <p>(略)</p> <p><P.15></p>		<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて</p> <p>ア-1 生命医療学専攻(博士課程)先進医学プログラム</p> <p>(略)</p> <p><P.15></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略)</p> <p>⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。</p> <p>(略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略)</p> <p>⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。</p> <p>(略)</p>
(略)		(略)	
<p>ア-2 生命医療学専攻(博士課程)先進薬学プログラム</p> <p>(略)</p> <p><P.17></p>		<p>ア-2 生命医療学専攻(博士課程)先進薬学プログラム</p> <p>(略)</p> <p><P.17></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略)</p> <p>⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。</p> <p>(略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略)</p> <p>⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。</p> <p>(略)</p>
(略)		(略)	

(新旧対照表) 【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図

【資料2】 カリキュラムマップ

新	旧
【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図及び【資料2】 カリキュラムマップの(新)を参照	【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図及び【資料2】 カリキュラムマップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則 (2 ページ)

新	旧
第3章 学年、学期、 <u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則（平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。） 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。 <u>3 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u> <u>4 各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u>	第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則（平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。） 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。

(新旧対照表) 学則 (9 ページ)

新	旧
<改正要旨> (略) 2 改正の要点 (略) <u>(3) 授業日時数を規定する。</u> (4) (略) (5) (略) (6) (略) (7) (略)	<改正要旨> (略) 2 改正の要点 (略) <u>(追加)</u> (3) (略) (4) (略) (5) (略) (6) (略)

(8) (略)	(7) (略)
(9) (略)	(8) (略)
(10) (略)	(9) (略)
(11) (略)	(10) (略)

(新旧対照表) 学則 (11~12 ページ)

新	旧
<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期、<u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。 3 <u>1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u> 4 <u>各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u></p>	<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。</p>

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療学専攻 (D)

3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

については、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (63 ページ)

新	旧
<p>(2) 情報公表の内容 大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、<u>単位修得の評価・認定</u>、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、<u>入学者数、収容定員、在学する学生数、卒業・修了した者の数、進学者数、就職者数、進学・就職等の状況</u>、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>	<p>(2) 情報公表の内容 大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>

(目次) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。(改善事項)
..... 9
2. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (10) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)の養成する人材像」において、「地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療科学(医科学・薬科学)研究者又は専門職医療人等」を掲げ、「1. (11) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)及び修了後の進路」において、「③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。」ことを本学のディプロマ・ポリシーに掲げていることを踏まえると、少なくとも「地域の保健医療」に関して理解を深めるための授業科目が必要であると考えられるが、シラバスを確認する限り、当該授業内容を取り扱う授業科目は「社会・予防医学概論」の1回分の授業(第7回)しかないように見受けられることから、ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な学びが、教育課程において適切に編成されているのか疑義がある。このため、地域の保健医療の現状等に対して理解を深めるために必要な授業科目が配置されていることについて、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)..... 12
3. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)..... 16
4. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第172条の2第1項第4号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」や同規則第172条の2第1項第6号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。(是正事項)..... 18

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついで、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)

新	旧
(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) (略)	(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) (略)
イ 生命医療科学専攻(博士前期課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略)	イ 生命医療科学専攻(博士前期課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略)
⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、 <u>レポート</u> 及び <u>研究成果</u> により評価する。 (略)	⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及び <u>レポート</u> により評価する。 (略)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19、21 ページ)

新		旧	
<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて (略)</p>		<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて (略)</p>	
<p>イ-1 生命医療科学専攻 (博士前期課程) 生命医科学プログラム (略) <P.19></p>		<p>イ-1 生命医療科学専攻 (博士前期課程) 生命医科学プログラム (略) <P.19></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。 (略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。 (略)</p>
(略)		(略)	
<p>イ-2 生命医療科学専攻 (博士前期課程) 生命薬科学プログラム (略) <P.21></p>		<p>イ-2 生命医療科学専攻 (博士前期課程) 生命薬科学プログラム (略) <P.21></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。 (略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。 (略)</p>
(略)		(略)	

(新旧対照表) 【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの相関図

【資料2】 カリキュラムマップ

新	旧
【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの相関図及び【資料2】 カリキュラムマップの(新)を参照	【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの相関図及び【資料2】 カリキュラムマップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

2. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (10) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)の養成する人材像」において、「地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療科学(医科学・薬科学)研究者又は専門職医療人等」を掲げ、「1. (11) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)及び修了後の進路」において、「③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。」ことを本学のディプロマ・ポリシーに掲げていることを踏まえると、少なくとも「地域の保健医療」に関して理解を深めるための授業科目が必要であると考えられるが、シラバスを確認する限り、当該授業内容を取り扱う授業科目は「社会・予防医学概論」の1回分の授業(第7回)しかないように見受けられることから、ディプロマ・ポリシーを達成するために必要な学びが、教育課程において適切に編成されているのか疑義がある。このため、地域の保健医療の現状等に対して理解を深めるために必要な授業科目が配置されていることについて、具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシーとして、「③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。」ことを掲げているが、これらを達成するためには、本県の地域医療体制や地域の保健医療の現状、本県で課題となっている疾患に関する基礎知識などに関する学びが必要である。

「社会・予防医学概論」においても、がんや循環器疾患などの生活習慣病に係る危険因子や予防、地域医療を担う薬剤師・薬局の視点からの健康増進・疾病予防等の取組について取り扱うこととしているが、疫学分野における基礎的知識・研究手法の修得や予防医療に関する知見の獲得に主眼を置いていることから、地域の保健医療に関して理解を深めるための授業科目「地域医療課題概論」をベーシック科目の必修科目(1単位)として新たに開講する。

これに伴い、科目数及び履修単位を変更するため、基本計画書、教育課程等の概要を改めるとともに、新たに「授業科目の概要」「シラバス」を作成する。また、学則の履修単位に係る箇所(P.2,9,12)、「設置の趣旨等を記載した書類」P.34~35のベーシック科目の単位数及び当該科目に関する説明、P.44の修了要件、P.56のくろしお寄附講座教員の担当コマ数を下記新旧対照表のとおり修正・追記する。あわせて【資料3】時間割、【資料5】履修モデルを修正する。

なお、この他にも、専門科目の「健康科学特論」において、高齢化や身近な疾患を取り上げることにより、地域の保健医療に対する理解を深めるための授業科目を配置しているところである。当該科目は生命医科学プログラムの科目ではあるが、生命薬科学プログラムの学生も選択が可能である。

(新旧対照表) 学則 (2 ページ)

新	旧
<p>第4章 教育方法等 (略) (履修単位)</p> <p>第12条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課程 にあつては <u>31</u> 単位以上、博士後期課程 にあつては 23 単位以上、博士課程にあつ ては 35 単位以上履修しなければならない。</p>	<p>第4章 教育方法等 (略) (履修単位)</p> <p>第12条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあつては <u>30</u> 単位以上、博士後期課程 にあつては 23 単位以上、博士課程にあつ ては 35 単位以上履修しなければならない。</p>

(新旧対照表) 学則 (9、12 ページ)

新	旧
<p><改正要旨> (略)</p> <p>2 改正の要点 (略)</p> <p>(4) 履修単位に関し、現行の修士課程 30 単位以上、博士課程 38 単位以上を、博士 前期課程 <u>31</u> 単位以上、博士後期課程 23 単 位以上、博士課程 35 単位以上に改める。</p> <p><新旧対照表(新)> 第4章 教育方法等 (略) (履修単位)</p> <p>第12条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあつては <u>31</u> 単位以上、博士後期課程 にあつては 23 単位以上、博士課程にあつ ては 35 単位以上履修しなければならない。</p>	<p><改正要旨> (略)</p> <p>2 改正の要点 (略)</p> <p>(3) 履修単位に関し、現行の修士課程 30 単位以上、博士課程 38 単位以上を、博士 前期課程 <u>30</u> 単位以上、博士後期課程 23 単 位以上、博士課程 35 単位以上に改める。</p> <p><新旧対照表(新)> 第4章 教育方法等 (略) (履修単位)</p> <p>第12条 医学薬学総合研究科の学生は、 所定の期間に授業科目のうち、博士前期課 程にあつては <u>30</u> 単位以上、博士後期課程 にあつては 23 単位以上、博士課程にあつ ては 35 単位以上履修しなければならない。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34～35 ページ)

新	旧
<p>イ 生命医療科学専攻 (博士前期課程) (略)</p> <p>【ベーシック科目】</p> <p>医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療の課題等について学ぶことで、自ら課題を発見する能力を身につけるため、必修・選択のベーシック科目 (修了要件は必修 <u>4</u> 単位、選択 2 単位以上 計 <u>6</u> 単位以上) を開設する。医科学・薬科学横断的な研究能力の修得や英語力の涵養などにおいて特に重要な <u>4</u> 科目は必修とし、その他は各学生のバックグラウンドや関心にあわせて選択できるようにする。</p>	<p>イ 生命医療科学専攻 (博士前期課程) (略)</p> <p>【ベーシック科目】</p> <p>医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療の課題等について学ぶことで、自ら課題を発見する能力を身につけるため、必修・選択のベーシック科目 (修了要件は必修 <u>3</u> 単位、選択 2 単位以上 計 <u>5</u> 単位以上) を開設する。医科学・薬科学横断的な研究能力の修得や英語力の涵養などにおいて特に重要な <u>3</u> 科目は必修とし、その他は各学生のバックグラウンドや関心にあわせて選択できるようにする。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (35 ページ)

新	旧
<p>「地域医療課題概論」(必修)では、本県の地域医療の実態を学ぶとともに、認知症など高齢者に多い疾患や在宅緩和ケア、予防医療、医療・介護資源の確保、副作用管理等における地域医療の役割について学修することにより、地域の保健医療課題への関心・理解を深める構成とする。</p>	<p>(12 行目に追加)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (44 ページ)

新	旧
<p>(5) 修了要件 (略)</p> <p>イ 生命医療科学専攻 (博士前期課程)</p> <p>修了認定を受けるために必要な修得単位数は、「共通科目」3 単位、「ベーシック科目」<u>6</u> 単位以上、「専門科目」6 単位以上、「特別科目 (特別演習) (特別研究)」16 単位、合計 <u>31</u> 単位以上とする。</p>	<p>(5) 修了要件 (略)</p> <p>イ 生命医療科学専攻 (博士前期課程)</p> <p>修了認定を受けるために必要な修得単位数は、「共通科目」3 単位、「ベーシック科目」<u>5</u> 単位以上、「専門科目」6 単位以上、「特別科目 (特別演習) (特別研究)」16 単位、合計 <u>30</u> 単位以上とする。</p>

(略)	(略)
-----	-----

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (56 ページ)

新	旧
<p>(6) くろしお寄附講座 (略)</p> <p>器官病態外科学において特別演習及び特別研究を担当する教員2名については、くろしお寄附講座に所属する本学の教員であるとともに、県内公的病院の診療部長を兼務する医師でもあるが、2名のうち1名の担当は特別演習及び特別研究のみ、もう1名は特別演習及び特別研究に加え講義科目<u>3コマ</u>であり、週1日の大学における教育活動の一環として対応することが可能である。</p>	<p>(6) くろしお寄附講座 (略)</p> <p>器官病態外科学において特別演習及び特別研究を担当する教員2名については、くろしお寄附講座に所属する本学の教員であるとともに、県内公的病院の診療部長を兼務する医師でもあるが、2名のうち1名の担当は特別演習及び特別研究のみ、もう1名は特別演習及び特別研究に加え講義科目<u>1コマ</u>であり、週1日の大学における教育活動の一環として対応することが可能である。</p>

(新旧対照表) 【資料3】時間割、【資料5】履修モデル

新	旧
<p>【資料3】時間割及び【資料5】履修モデルの(新)を参照</p>	<p>【資料3】時間割及び【資料5】履修モデルの(旧)を参照</p>

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

3. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則 (2 ページ)

新	旧
<p>第3章 学年、学期、<u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等)</p> <p>第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則（平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。） 第10条を準用する。</p> <p>2 休業日については、大学学則第11条を準用する。</p> <p><u>3 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u></p> <p><u>4 各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u></p>	<p>第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等)</p> <p>第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則（平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。） 第10条を準用する。</p> <p>2 休業日については、大学学則第11条を準用する。</p>

(新旧対照表) 学則 (9 ページ)

新	旧
<p><改正要旨> (略)</p> <p>2 改正の要点 (略)</p> <p><u>(3) 授業日時数を規定する。</u></p> <p>(4) (略)</p> <p>(5) (略)</p> <p>(6) (略)</p> <p>(7) (略)</p>	<p><改正要旨> (略)</p> <p>2 改正の要点 (略)</p> <p><u>(追加)</u></p> <p>(3) (略)</p> <p>(4) (略)</p> <p>(5) (略)</p> <p>(6) (略)</p>

(8) (略)	(7) (略)
(9) (略)	(8) (略)
(10) (略)	(9) (略)
(11) (略)	(10) (略)

(新旧対照表) 学則 (11~12 ページ)

新	旧
<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期、<u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。 3 <u>1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u> 4 <u>各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u></p>	<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。</p>

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (M)

4. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

については、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (63 ページ)

新	旧
<p>(2) 情報公表の内容</p> <p>大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、<u>単位修得の評価・認定</u>、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、<u>入学者数、収容定員、在学する学生数、卒業・修了した者の数、進学者数、就職者数、進学・就職等の状況</u>、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>	<p>(2) 情報公表の内容</p> <p>大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>

(目次) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。(改善事項)
・・・・・・・・・・20
2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・23
3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第172条の2第1項第4号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」や同規則第172条の2第1項第6号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。(是正事項)・・・・・・・・・・25

(改善事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

1. 「設置の趣旨等を記載した書類」の「1. (12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」において、「⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する」ことを掲げているが、研究成果が成績評価の対象であるか判然としない。一方、シラバスを確認する限り、研究指導科目においては「研究技能の修得状況」や「研究の遂行状況」を評価内容としていることから、研究成果も成績評価に含まれるように見受けられる。このため、本学が掲げるカリキュラム・ポリシー⑦について、学生の学修成果の評価の在り方を定めたものとして、社会や本研究科の授業を履修する学生等に対して誤解が生じることのないよう、成績評価に研究成果も含まれることが分かるような表現に改めることが望ましい。

(対応)

シラバスに記載している「研究技能の修得状況」及び「研究の遂行状況」については、いずれも指導を受けて研究を行うことによる成果として認識し、それを評価の対象とすることとしている。ついで、カリキュラム・ポリシー⑦を下記新旧対照表のとおり、成績評価に研究成果も含まれることが分かるよう表現を改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) (略)	(12) 医学薬学総合研究科の2専攻(3課程)のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針) (略)
ウ 生命医療科学専攻(博士後期課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略)	ウ 生命医療科学専攻(博士後期課程) 【カリキュラム・ポリシー】 (略)
⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、 <u>レポート</u> 及び <u>研究成果</u> により評価する。 (略)	⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組 <u>及び</u> レポートにより評価する。 (略)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23、25 ページ)

新		旧	
<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて (略)</p>		<p>(16) 各学位プログラムの目的、養成する人材像、ディプロマ・ポリシー及び修了後の進路、カリキュラム・ポリシー並びにアドミッション・ポリシーについて (略)</p>	
<p>ウ-1 生命医療科学専攻 (博士後期課程) 生命医科学プログラム (略) <P.23></p>		<p>ウ-1 生命医療科学専攻 (博士後期課程) 生命医科学プログラム (略) <P.23></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。 (略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。 (略)</p>
(略)		(略)	
<p>ウ-2 生命医療科学専攻 (博士後期課程) 生命薬科学プログラム (略) <P.25></p>		<p>ウ-2 生命医療科学専攻 (博士後期課程) 生命薬科学プログラム (略) <P.25></p>	
カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、<u>レポート及び研究成果</u>により評価する。 (略)</p>	カリキュラム・ポリシー	<p>(略) ⑦成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組<u>及びレポート</u>により評価する。 (略)</p>
(略)		(略)	

(新旧対照表) 【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図

【資料2】 カリキュラムマップ

新	旧
【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図及び【資料2】 カリキュラムマップの(新)を参照	【資料1】 養成する人材像と3つのポリシーの関連図及び【資料2】 カリキュラムマップの(旧)を参照

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

2. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

学校教育法施行規則第4条第1項第3号に規定する「授業日時数」について、下記新旧対照表のとおり本学大学院学則に追加する。

(新旧対照表) 学則 (2 ページ)

新	旧
第3章 学年、学期、 <u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則(平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。)第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。 <u>3 1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u> <u>4 各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u>	第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則(平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。)第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。

(新旧対照表) 学則 (9 ページ)

新	旧
<改正要旨> (略) 2 改正の要点 (略) <u>(3) 授業日時数を規定する。</u> (4) (略) (5) (略) (6) (略) (7) (略)	<改正要旨> (略) 2 改正の要点 (略) <u>(追加)</u> (3) (略) (4) (略) (5) (略) (6) (略)

(8) (略)	(7) (略)
(9) (略)	(8) (略)
(10) (略)	(9) (略)
(11) (略)	(10) (略)

(新旧対照表) 学則 (11~12 ページ)

新	旧
<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期、<u>休業日及び授業日時数</u> (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。 3 <u>1年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。</u> 4 <u>各授業科目の授業は、15週を単位として行うものとする。</u></p>	<p><新旧対照表 (新) > 第3章 学年、学期及び休業日 (略) (学期及び休業日等) 第9条 学期については、和歌山県立医科大学学則 (平成18年和歌山県立医科大学規則第1号。以下「大学学則」という。) 第10条を準用する。 2 休業日については、大学学則第11条を準用する。</p>

(是正事項) 医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻 (D)

3. 公表する情報として挙げられている項目に、学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号に規定されている「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事」や同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている「学修の成果に係る評価に関する事」についての情報がないことから、適切に公表すること。

(対応)

学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項第 4 号及び同規則第 172 条の 2 第 1 項第 6 号に規定されている各事項に係る情報を適切に公表する。

については、「設置の趣旨等を記載した書類」を下記新旧対照表のとおり改める。

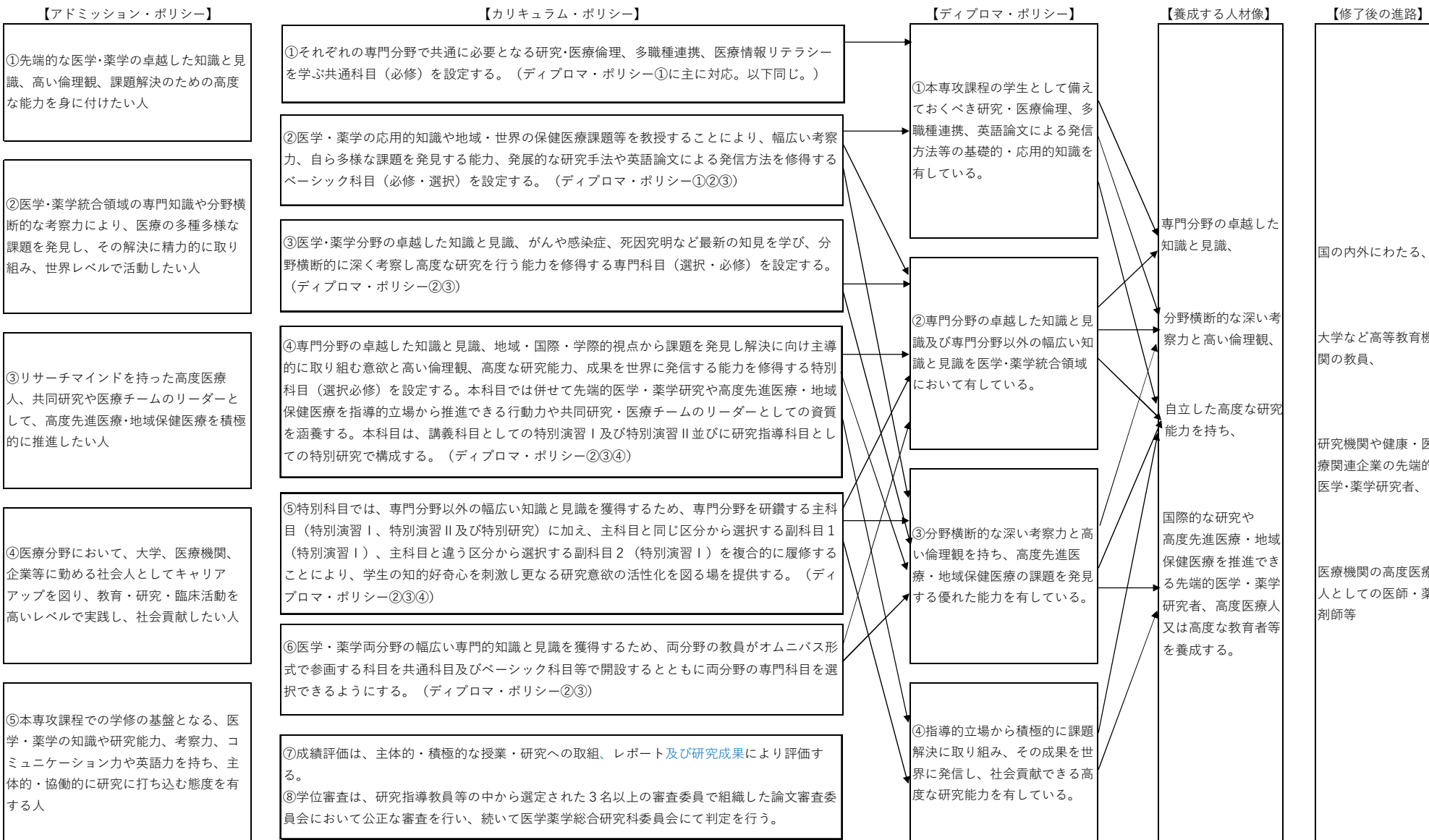
(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (63 ページ)

新	旧
<p>(2) 情報公表の内容</p> <p>大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、<u>単位修得の評価・認定</u>、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、<u>入学者数、収容定員、在学する学生数、卒業・修了した者の数、進学者数、就職者数、進学・就職等の状況</u>、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>	<p>(2) 情報公表の内容</p> <p>大学院の目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、大学院の講義、授業科目の内容・シラバス、修了要件、学位申請、在籍中の各種申請関係、学位論文に係る評価基準、アドミッション・ポリシーや募集要項など入試関連などの大学院関係情報とともに、大学の教育研究上の目的・方針、教育研究上の基本組織、教員数、各教員の学位・業績等、授業料・入学料・その他費用、教育研究環境、心身の健康等に係る支援、大学評価結果なども積極的に公表する。</p>

養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士課程）

【資料1】

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



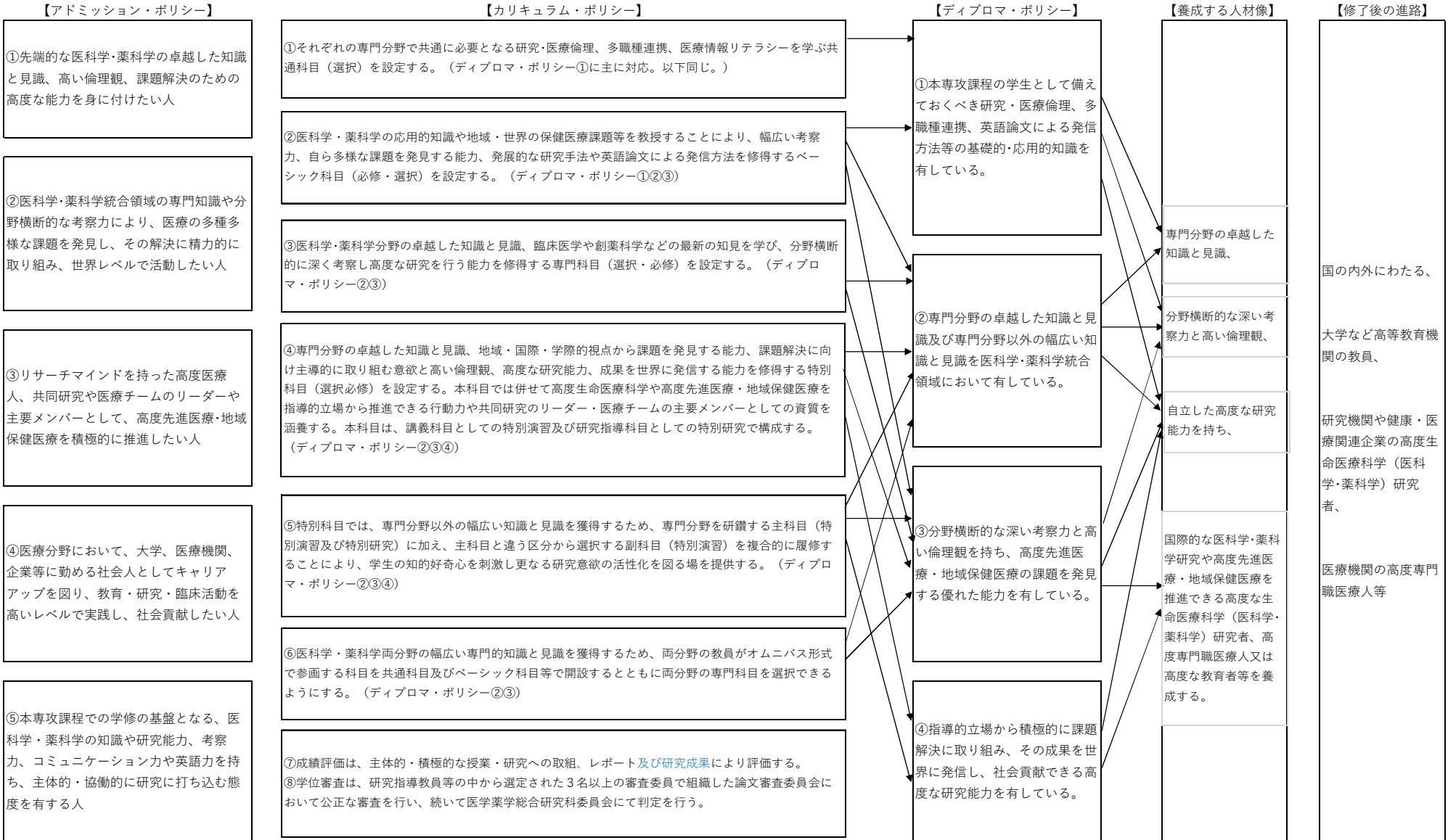
養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士前期課程）

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士後期課程）

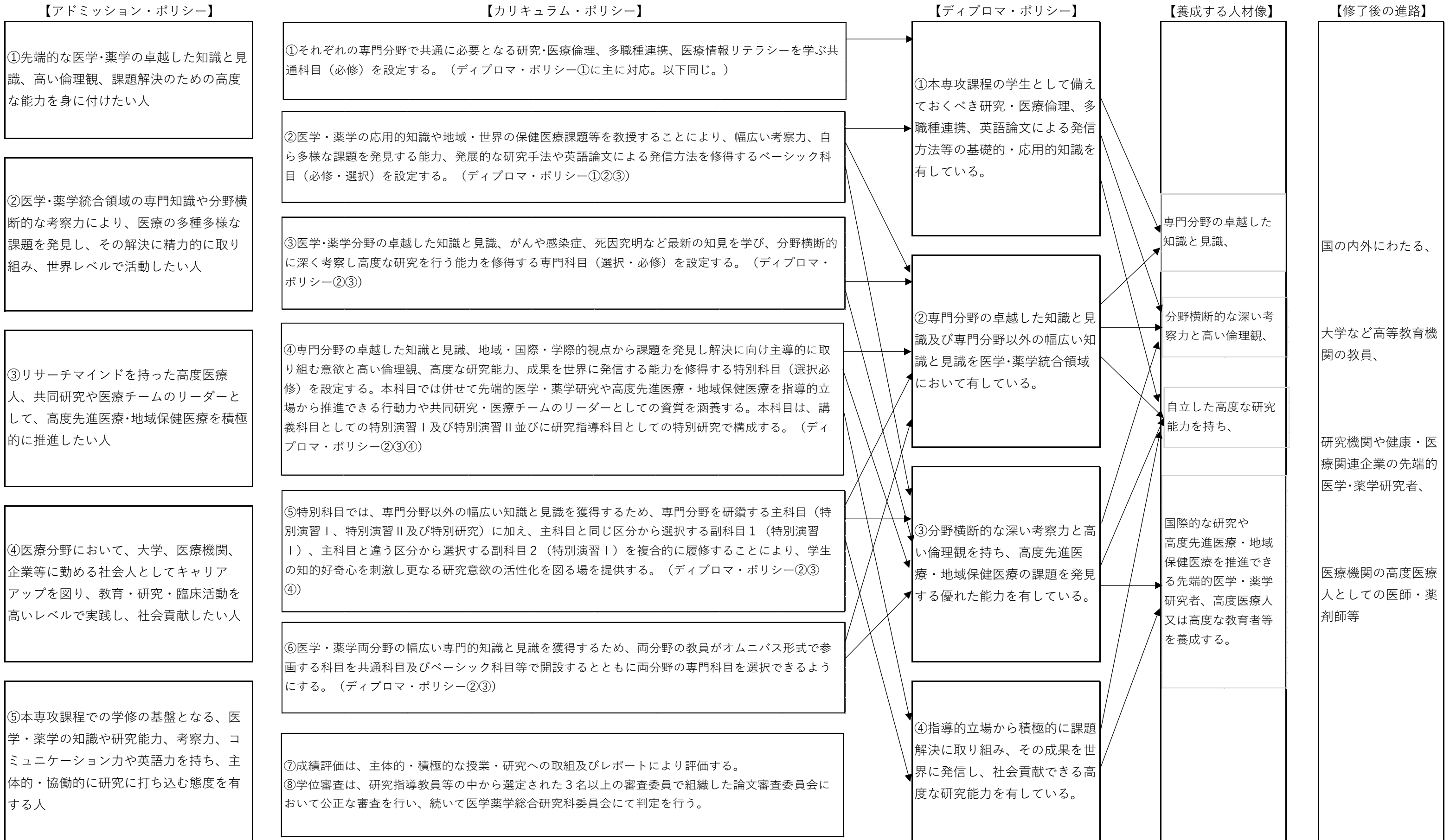
<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士課程）

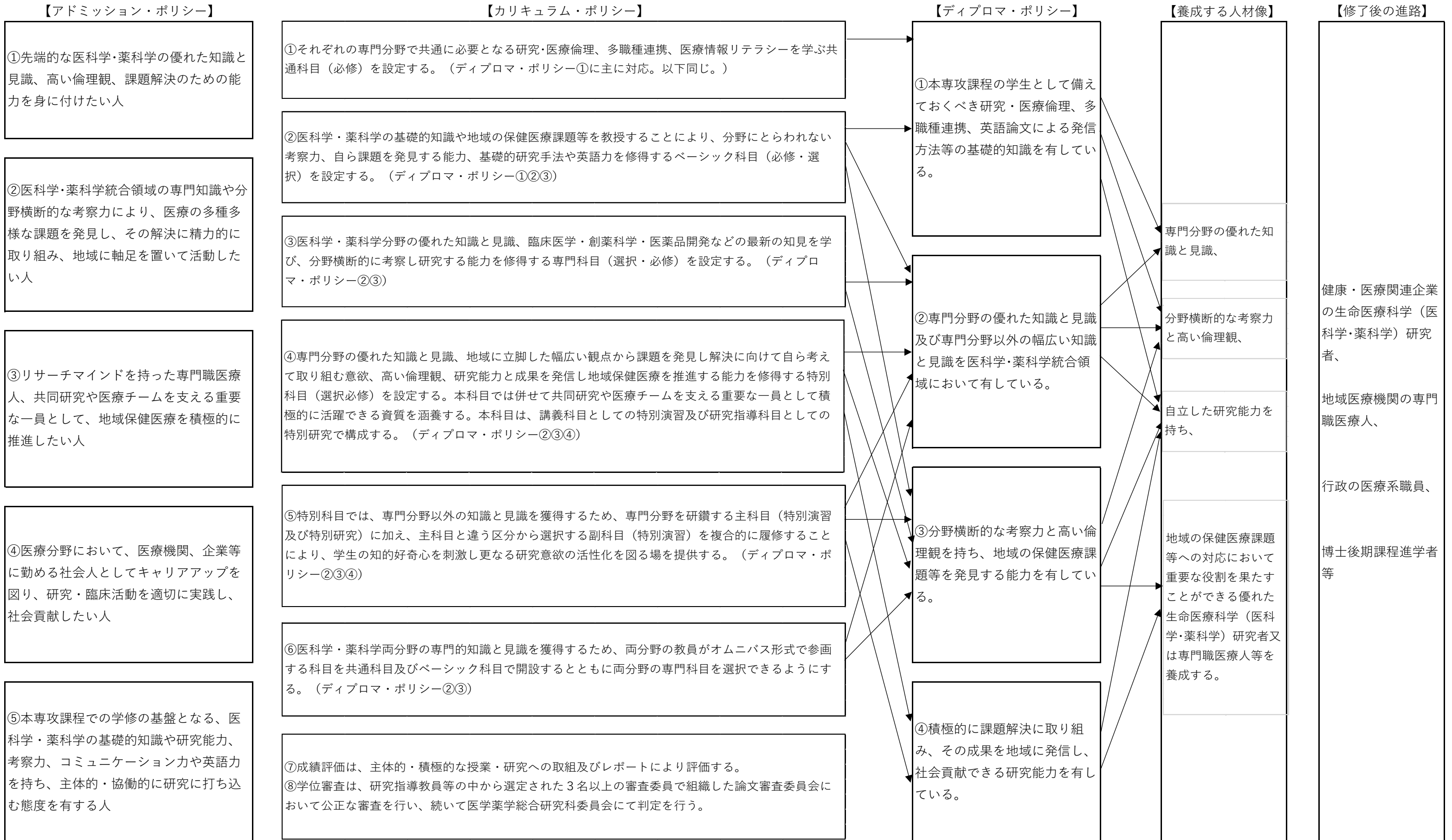
【資料1】

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



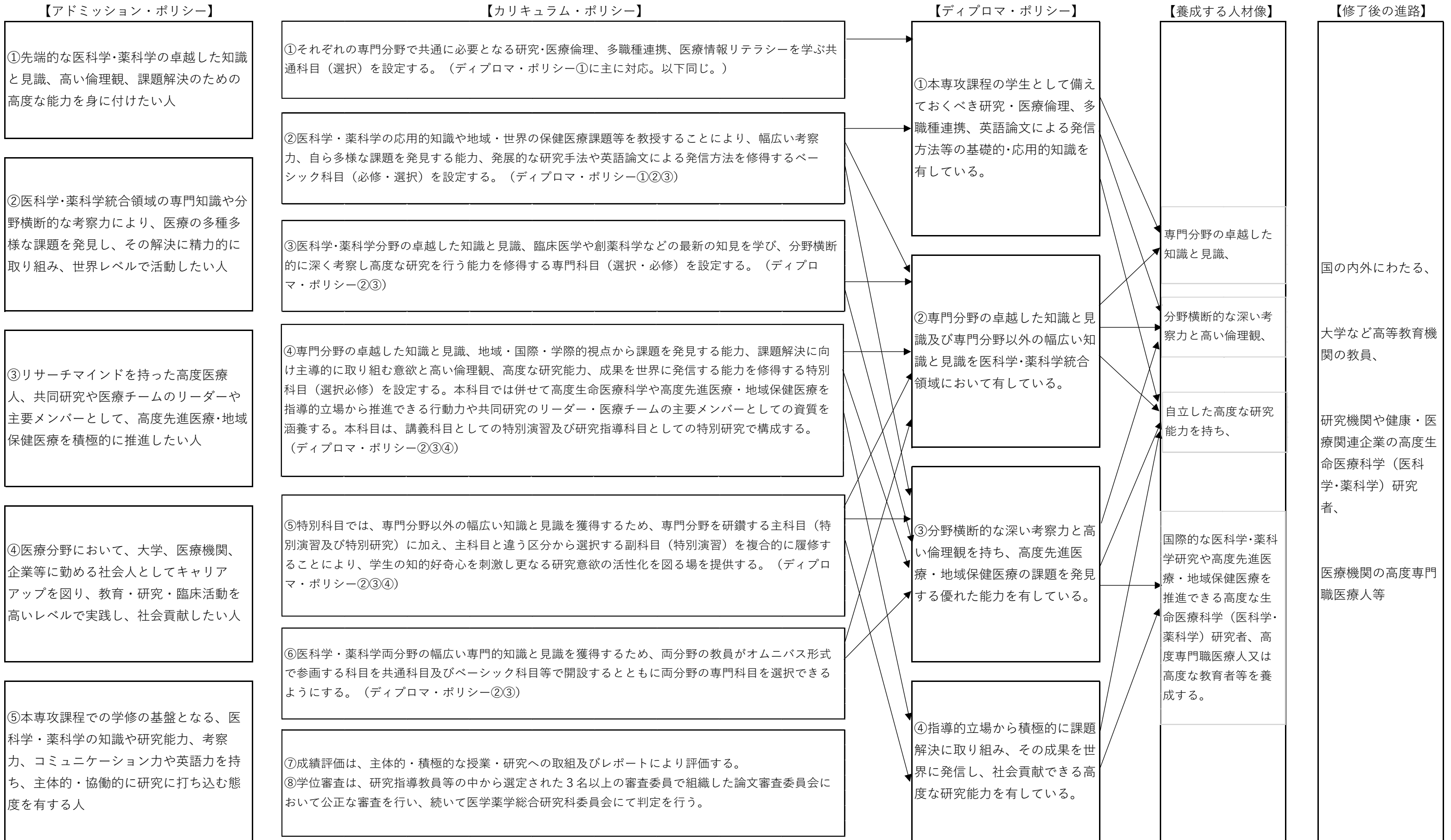
養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士前期課程）

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



養成する人材像と3つのポリシーの相関図（生命医療学専攻博士後期課程）

<研究科の目的> 和歌山県立医科大学の地域における役割と和歌山県の地域保健医療の状況を踏まえた上で、高度先進的かつ医学・薬学横断的な研究能力、その基礎となる学識と研究倫理を備え、かつ広く世界に貢献する高度医療人及び生命医療科学・医学・薬学の研究者を育成する。



医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程） カリキュラムマップ 【資料2】

(新)

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる先端的医学・薬学研究者、高度医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

科目体系

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的医学・薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ及び特別研究）に加え、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

研究倫理・医療倫理学B
動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目
多職種連携B
多職種連携の実践について学ぶ科目
医療情報リテラシーB
医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論
実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目
疫学方法特論
疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目
Advanced Academic English
英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目
基礎医学・薬学特論Ⅰ・Ⅱ
システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目
地域医療課題特論Ⅰ・Ⅱ
地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】分子生命科学特論、感染症学特論、病理病態学特論B、腫瘍学特論
【薬系型】最新臨床薬理学特論、免疫・発がん特論、神経再生・発生・疾患学特論、
【統合型】死因究明学特論、医療データサイエンス学特論B
がんや感染症、死因究明などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目：特別演習Ⅰ・Ⅱ＋特別研究（研究指導科目）
副科目：特別演習Ⅰ（同区分＋異なる区分）
課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目
成果を世界に発信する能力を修得する科目
共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療科学（医科学・薬科学）研究者又は専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②専門分野の優れた知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組む、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要な研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療課題等を教授することにより、分野にとられない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学・薬科学分野の優れた知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習及び特別研究）に加え、主科目と違う区分から選択する副科目（特別演習）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理・医療倫理学A

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について基礎的な知識を修得し、高い倫理観を養う科目

多職種連携A

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーA

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用に係る基本的手法を学ぶ科目

基礎的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を基礎的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

社会・予防医学概論

疫学分野における基礎的知識・研究手法について学ぶ科目

Academic English

英語論文の読み方・書き方、発信方法を学ぶ科目

地域医療課題概論

地域の保健医療に関して理解を深めるための科目

基礎生体科学特論、生体分子解析学特論

生命医療科学研究の基本となる生物学・化学等に係る科目

基礎医科学・薬科学特論Ⅰ・Ⅱ

統合分子生理学、分子遺伝学、分子生物学、薬品化学など医科学・薬科学の基礎的な科目

【医系型】人体構造機能科学特論、機能調節薬理学特論、微生物・ウイルス・免疫学特論、病理病態学特論A、臨床医学特論、健康科学特論、医療データサイエンス学特論A

【薬系型】安全科学特論、医薬品開発特論、最先端創薬科学特論、健康機能調節学特論

臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・研究能力を修得する科目

主科目：特別演習＋特別研究（研究指導科目）

副科目：特別演習（異なる区分）

課題解決に向けて自ら考えて取り組む意欲を養う科目
成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する科目
共同研究・医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な医科学・薬科学研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる高度な生命医療科学（医科学・薬科学）研究者、高度専門職医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

科目体系

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

それぞれの専門分野で共通に必要な研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学・薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習及び特別研究）に加え、主科目と違う区分から選択する副科目（特別演習）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

研究倫理・医療倫理学 B
動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目
多職種連携 B
多職種連携の実践について学ぶ科目
医療情報リテラシー B
医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論
実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目
疫学方法特論
疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目
Advanced Academic English
英語論文の読み方、英語による発信方法を学ぶ科目
基礎医学・薬学特論 I・II
システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目
地域医療課題特論 I・II
地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】臨床医学特講、健康科学特講
【薬系型】創薬標的評価学特講、神経薬理学特講、基礎薬科学特講
【統合型】がんに対する医学・薬学アプローチ
臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目：特別演習＋特別研究（研究指導科目）
副科目：特別演習（異なる区分）
課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目
成果を世界に発信する能力を修得する科目
共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程）先進医学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医学・医療の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、共同研究のリーダーとなりうる先端的医学研究者、医療チームのリーダーとして高度先進医療・地域保健医療を推進できる医師、又は大学等で高度な教育研究を行う教育者を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②医学・医療の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択）を設定する。

医学・医療における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的医学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	必修
多職種連携B	必修
医療情報リテラシーB	必修

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

分子生命科学特論	3単位選択
感染症学特論	
病理病態学特論B	
腫瘍学特論	
最新臨床薬理学特論	1単位選択
免疫・発がん特論	
神経再生・発生・疾患学特論	1単位選択
死因究明学特論	
医療データサイエンス学特論B	

特別科目

A区分
 社会医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 形態機能医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 細胞分子機能医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究

B区分
 総合医療医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 器官病態内科学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 器官病態外科学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 ※主科目の他、副科目として特別演習Ⅰを同区分及び異なる区分（薬系も含む）から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程）生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業での研究開発や地域医療機関等の臨床現場で共同研究や医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた生命医療科学（医科学）研究者や専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②医科学分野の優れた知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

分野横断的な幅広い観点から医科学の基礎的知識を教授することにより、分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学A	必修
多職種連携A	必修
医療情報リテラシーA	必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論	必修
社会・予防医学概論	必修
Academic English	必修
地域医療課題概論	必修
基礎生体科学特論	2単位選択
生体分子解析学特論	
基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	
基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	

専門科目

人体構造機能科学特論	4単位選択
機能調節薬理学特論	
微生物・ウイルス・免疫学特論	
病理病態学特論A	
臨床医学特論	2単位選択
健康科学特論	
医療データサイエンス学特論A	
安全科学特論	
医薬品開発特論	2単位選択
最先端創薬科学特論	
健康機能調節学特論	

特別科目

A区分
 社会医学特別演習、同特別研究
 形態機能医学特別演習、同特別研究
 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究

B区分
 総合医療医学特別演習、同特別研究
 器官病態内科学特別演習、同特別研究
 器官病態外科学特別演習、同特別研究
 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（薬系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程）生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や健康・医療関連企業で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学（医科学）研究者、地域医療機関等の現場で医療チームの主要メンバーとして活躍できる高度専門職医療人又は大学等の高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法の基礎的・応用的知識を有している。

②医科学分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	選択
多職種連携B	選択
医療情報リテラシーB	選択

※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修の場合、選択

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

臨床医学特講	必修
健康科学特講	必修
創薬標的評価学特講	1単位選択
神経薬理学特講	
基礎薬科学特講	
がんに対する医学・薬学アプローチ	必修

特別科目

A区分
社会医学特別演習、同特別研究
形態機能医学特別演習、同特別研究
細胞分子機能医学特別演習、同特別研究

B区分
総合医療医学特別演習、同特別研究
器官病態内科学特別演習、同特別研究
器官病態外科学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（薬系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程）先進薬学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬学に関する卓越した専門的知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、地域や世界で活躍できる先端的薬学研究者・教育者又は指導的立場から分野横断的に高度先進医療や創薬を含む臨床直結型研究を推進できる高度医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②薬学に関する卓越した専門的知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、先端的な薬学研究や高度先進医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

薬学分野における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	必修
多職種連携B	必修
医療情報リテラシー-B	必修

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

分子生命科学特論	1 単位選択
感染症学特論	
病理病態学特論B	
腫瘍学特論	
最新臨床薬理学特論	必修
免疫・発がん特論	必修
神経再生・発生・疾患学特論	必修
死因究明学特論	1 単位選択
医療データサイエンス学特論B	

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
生命薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究

D区分
医療薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
※主科目の他、副科目として特別演習Ⅰを同区分及び異なる区分（医系も含む）から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程）生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学に関する幅広い専門的知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業（製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など）での創薬などの研究、開発に携わる研究者、医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた生命医療科学（薬科学）研究者又は専門職医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②薬科学分野に関する幅広い知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

分野横断的な幅広い観点から薬科学の基礎的知識を教授することにより、分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）として設定する。

薬科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、高い倫理観、幅広い視野、自ら考えて研究し課題解決する意欲と能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて健康関連企業における課題に積極的に取り組む行動力と資質を身に付ける。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学における専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに、両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学A	必修
多職種連携A	必修
医療情報リテラシーA	必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論	必修
社会・予防医学概論	必修
Academic English	必修
地域医療課題概論	必修
基礎生体科学特論	2単位選択
生体分子解析学特論	
基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	2単位選択
基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	

専門科目

人体構造機能科学特論	2単位選択	
機能調節薬理学特論		
微生物・ウイルス・免疫学特論		
病理病態学特論A		
臨床医学特論		
健康科学特論		
医療データサイエンス学特論A		
安全科学特論		必修
医薬品開発特論		必修
最先端創薬科学特論		必修
健康機能調節学特論	必修	

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習、同特別研究
生命薬学特別演習、同特別研究

D区分
医療薬学特別演習、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（医系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程）生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、国際的に通用する自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や地域の健康・医療関連企業等（製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など）で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学（薬科学）研究者や大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②薬科学分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信する高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向けて主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目は講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と分野横断的な専門的知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組、レポート及び研究成果により評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B 選択
多職種連携B 選択
医療情報リテラシーB 選択
※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修の場合、選択

ベーシック科目

発展的研究方法論 必修
疫学方法特論 必修
Advanced Academic English 必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ どちらか選択
地域医療課題特論Ⅰ どちらか選択
地域医療課題特論Ⅱ どちらか選択

専門科目

臨床医学特講 1単位選択
健康科学特講 1単位選択
創薬標的評価学特講 2単位選択
神経薬理学特講 2単位選択
基礎薬科学特講 2単位選択
がんに対する医学・薬学アプローチ 必修

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習、同特別研究
生命薬学特別演習、同特別研究
D区分
医療薬学特別演習、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習、同特別研究
※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（医系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程） カリキュラムマップ【資料2】

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる先端的医学・薬学研究者、高度医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要な研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的医学・薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ及び特別研究）に加え、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理・医療倫理学B

動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目

多職種連携B

多職種連携の実践について学ぶ科目

医療情報リテラシーB

医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論

実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目

疫学方法特論

疫学の重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目

Advanced Academic English

英語論文の読み方、英語による発信方法等を学ぶ科目

基礎医学・薬学特論Ⅰ・Ⅱ

システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目

地域医療課題特論Ⅰ・Ⅱ

地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】分子生命科学特論、感染症学特論、病理病態学特論B、腫瘍学特論

【薬系型】最新臨床薬理学特論、免疫・発がん特論、神経再生・発生・疾患学特論、

【統合型】死因究明学特論、医療データサイエンス学特論B

がんや感染症、死因究明などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目：特別演習Ⅰ・Ⅱ＋特別研究（研究指導科目）

副科目：特別演習Ⅰ（同区分＋異なる区分）

課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目

成果を世界に発信する能力を修得する科目

共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程） カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、地域の保健医療課題等への対応において重要な役割を果たすことができる優れた生命医療科学（医科学・薬科学）研究者又は専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②専門分野の優れた知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要な研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医科学・薬科学の基礎的知識や地域の保健医療課題等を教授することにより、分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学・薬科学分野の優れた知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習及び特別研究）に加え、主科目と違う区分から選択する副科目（特別演習）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理・医療倫理学A
動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について基礎的な知識を修得し、高い倫理観を養う科目
多職種連携A
多職種連携の実践について学ぶ科目
医療情報リテラシーA
医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用に係る基本的手法を学ぶ科目

基礎的研究方法論
実験方法や社会調査法などの研究手法を基礎的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目
社会・予防医学概論
疫学分野における基礎的知識・研究手法について学ぶ科目
Academic English
英語論文の読み方・書き方、発信方法を学ぶ科目
基礎生体科学特論、生体分子解析学特論
生命医療科学研究の基本となる生物学・化学等に係る科目
基礎医科学・薬科学特論Ⅰ・Ⅱ
統合分子生理学、分子遺伝学、分子生物薬学、薬品化学など医科学・薬科学の基礎的な科目

【医系型】 人体構造機能科学特論、機能調節薬理学特論、微生物・ウイルス・免疫学特論、病理病態学特論A、臨床医学特論、健康科学特論、医療データサイエンス学特論A
【薬系型】 安全科学特論、医薬品開発特論、最先端創薬科学特論、健康機能調節学特論
臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・研究能力を修得する科目

主科目：特別演習＋特別研究（研究指導科目）
副科目：特別演習（異なる区分）
課題解決に向けて自ら考えて取り組む意欲を養う科目
成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する科目
共同研究・医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程） カリキュラムマップ

【養成する人材像】

専門分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、国際的な医科学・薬科学研究や高度先進医療・地域保健医療を推進できる高度な生命医療科学（医科学・薬科学）研究者、高度専門職医療人又は高度な教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本専攻課程の学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②専門分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要な研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学・薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野以外の幅広い知識と見識を獲得するため、専門分野を研鑽する主科目（特別演習及び特別研究）に加え、主科目と違う区分から選択する副科目（特別演習）を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

研究倫理・医療倫理学 B
動物実験や遺伝子組換え実験等における研究倫理及び臨床現場での医療倫理について考察し、高い倫理観を養う科目
多職種連携 B
多職種連携の実践について学ぶ科目
医療情報リテラシー B
医療ビッグデータ、ゲノム情報解析、多変量統計解析など、医療情報の活用方法や統計について学ぶ科目

発展的研究方法論
実験方法や社会調査法などの研究手法を発展的な内容で学び、自立的に研究できる能力を養う科目
疫学方法特論
疫学的重要概念や研究手法を系統的に学ぶ科目
Advanced Academic English
英語論文の読み方、英語による発信方法を学ぶ科目
基礎医学・薬学特論 I・II
システム神経生理学、分子機能形態学、薬品作用学など医学・薬学の基礎的な科目
地域医療課題特論 I・II
地域の保健医療課題について理解を深める科目

【医系型】臨床医学特講、健康科学特講
【薬系型】創薬標的評価学特講、神経薬理学特講、基礎薬学特講
【統合型】がんに対する医学・薬学アプローチ
臨床医学・創薬科学などの最新の知見を修得する科目
分野横断的な考察力・高度な研究能力を養う科目

主科目：特別演習＋特別研究（研究指導科目）
副科目：特別演習（異なる区分）
課題解決に向け主導的に取り組む意欲を養う科目
成果を世界に発信する能力を修得する科目
共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する科目
更なる研究意欲の活性化を図る科目

医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程）先進医学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医学・医療の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、共同研究のリーダーとなりうる先端的医学研究者、医療チームのリーダーとして高度先進医療・地域保健医療を推進できる医師、又は大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②医学・医療の卓越した知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択）を設定する。

医学・医療における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的医学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	必修
多職種連携B	必修
医療情報リテラシーB	必修

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ] いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ] いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

分子生命科学特論] 3単位選択
感染症学特論	
病理病態学特論B	
腫瘍学特論] 1単位選択
最新臨床薬理学特論	
免疫・発がん特論] 1単位選択
神経再生・発生・疾患学特論	
死因究明学特論	
医療データサイエンス学特論B	

特別科目

A区分
 社会医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 形態機能医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 細胞分子機能医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究

B区分
 総合医療医学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 器官病態内科学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 器官病態外科学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
 ※主科目の他、副科目として特別演習Ⅰを同区分及び異なる区分（薬系も含む）から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程）生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の優れた知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業での研究開発や地域医療機関等の臨床現場で共同研究や医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた生命医療科学（医科学）研究者や専門職医療人等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②医科学分野の優れた知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

分野横断的な幅広い観点から医科学の基礎的知識を教授することにより、分野にとらわれない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、地域に立脚した幅広い観点から課題を発見し解決に向けて自ら考えて取り組む意欲、高い倫理観、研究能力と成果を発信し地域保健医療を推進する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて共同研究や医療チームを支える重要な一員として積極的に活躍できる資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学両分野の専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学A	必修
多職種連携A	必修
医療情報リテラシーA	必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論	必修
社会・予防医学概論	必修
Academic English	必修
基礎生体科学特論	2単位選択
生体分子解析学特論	
基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	
基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	

専門科目

人体構造機能科学特論	4単位選択
機能調節薬理学特論	
微生物・ウイルス・免疫学特論	
病理病態学特論A	
臨床医学特論	2単位選択
健康科学特論	
医療データサイエンス学特論A	
安全科学特論	
医薬品開発特論	2単位選択
最先端創薬科学特論	
健康機能調節学特論	

特別科目

A区分
 社会医学特別演習、同特別研究
 形態機能医学特別演習、同特別研究
 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究

B区分
 総合医療医学特別演習、同特別研究
 器官病態内科学特別演習、同特別研究
 器官病態外科学特別演習、同特別研究
 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（薬系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程）生命医科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

医科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や健康・医療関連企業で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学（医科学）研究者、地域医療機関等の現場で医療チームの主要メンバーとして活躍できる高度専門職医療人又は大学等の高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法の基礎的・応用的知識を有している。

②医科学分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見する能力、課題解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて高度生命医療科学や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究のリーダー・医療チームの主要メンバーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と分野横断的な専門的知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	選択
多職種連携B	選択
医療情報リテラシーB	選択
※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修の場合、選択	

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

臨床医学特講	必修
健康科学特講	必修
創薬標的評価学特講	1単位選択
神経薬理学特講	
基礎薬科学特講	
がんに対する医学・薬学アプローチ	必修

特別科目

A区分
 社会医学特別演習、同特別研究
 形態機能医学特別演習、同特別研究
 細胞分子機能医学特別演習、同特別研究

B区分
 総合医療医学特別演習、同特別研究
 器官病態内科学特別演習、同特別研究
 器官病態外科学特別演習、同特別研究
 ※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（薬系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療学専攻（博士課程）先進薬学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬学に関する卓越した専門的知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、自立した高度な研究能力を持ち、地域や世界で活躍できる先端的薬学研究者・教育者又は指導的立場から分野横断的に高度先進医療や創薬を含む臨床直結型研究を推進できる高度医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②薬学に関する卓越した専門的知識と見識及び専門分野以外の幅広い知識と見識を医学・薬学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、先端的な薬学研究や高度先進医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信し、社会貢献できる高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

医学・薬学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

医学・薬学分野の卓越した知識と見識、がんや感染症、死因究明など最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

薬学分野における卓越した知識と見識、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向け主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて先端的薬学研究や高度先進医療・地域保健医療を指導的立場から推進できる行動力や共同研究・医療チームのリーダーとしての資質を涵養する。本科目は、講義科目としての特別演習Ⅰ及び特別演習Ⅱ並びに研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、主科目と同じ区分から選択する副科目1（特別演習Ⅰ）、主科目と違う区分から選択する副科目2（特別演習Ⅰ）を履修し、専門分野にとられない幅広い視野と専門的知識の修得を可能とする。

医学・薬学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	必修
多職種連携B	必修
医療情報リテラシーB	必修

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

分子生命科学特論	1単位選択
感染症学特論	
病理病態学特論B	
腫瘍学特論	
最新臨床薬理学特論	必修
免疫・発がん特論	必修
神経再生・発生・疾患学特論	必修
死因究明学特論	1単位選択
医療データサイエンス学特論B	

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
生命薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究

D区分
医療薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習Ⅰ・Ⅱ、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習Ⅰを同区分及び異なる区分（医系も含む）から各1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士前期課程）生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学に関する幅広い専門的知識と見識、分野横断的な考察力と高い倫理観、自立した研究能力を持ち、健康・医療関連企業（製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など）での創薬などの研究、開発に携わる研究者、医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた生命医療科学（薬科学）研究者又は専門職医療人を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的知識を有している。

②薬科学分野に関する幅広い知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な考察力と高い倫理観を持ち、地域の保健医療課題等を発見する能力を有している。

④積極的に課題解決に取り組み、その成果を地域に発信し、社会貢献できる研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（必修）を設定する。

分野横断的な幅広い観点から薬科学の基礎的知識を教授することにより、分野にとられない考察力、自ら課題を発見する能力、基礎的研究手法や英語力を修得するベーシック科目（必修・選択）として設定する。

薬科学に係る幅広い知識と見識、臨床医学・創薬科学・医薬品開発などの最新の知見を学び、分野横断的に考察し研究する能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

専門分野の優れた知識と見識、高い倫理観、幅広い視野、自ら考えて研究し課題解決する意欲と能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目では併せて健康関連企業における課題に積極的に取り組む行動力と資質を身に付ける。本科目は、講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、専門分野を研鑽する主科目、主科目と違う区分から選択する副科目を複合的に履修することにより、学生の知的好奇心を刺激し更なる研究意欲の活性化を図る場を提供する。

医科学・薬科学における専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目で開設するとともに、両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学A	必修
多職種連携A	必修
医療情報リテラシーA	必修

ベーシック科目

基礎的研究方法論	必修
社会・予防医学概論	必修
Academic English	必修
基礎生体科学特論	2単位選択
生体分子解析学特論	
基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	
基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	

専門科目

人体構造機能科学特論	2単位選択	
機能調節薬理学特論		
微生物・ウイルス・免疫学特論		
病理病態学特論A		
臨床医学特論		
健康科学特論		
医療データサイエンス学特論A		
安全科学特論		必修
医薬品開発特論		必修
最先端創薬科学特論		必修
健康機能調節学特論	必修	

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習、同特別研究
生命薬学特別演習、同特別研究

D区分
医療薬学特別演習、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（医系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科生命医療科学専攻（博士後期課程）生命薬科学プログラム カリキュラムマップ

【養成する人材像】

薬科学の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力と高い倫理観、国際的に通用する自立した高度な研究能力を持ち、研究機関や地域の健康・医療関連企業等（製薬・医療・化学・食品・香料・化粧品など）で共同研究のリーダーとして行動できる高度生命医療科学（薬科学）研究者や大学等で高度な教育研究を行う教育者等を養成する。

ディプロマ・ポリシー

①本プログラムの学生として備えておくべき研究・医療倫理、多職種連携、英語論文による発信方法等の基礎的・応用的知識を有している。

②薬科学分野の卓越した知識と見識及び専門分野以外の知識と見識を医科学・薬科学統合領域において有している。

③分野横断的な深い考察力と高い倫理観を持ち、高度先進医療・地域保健医療の課題を発見する優れた能力を有している。

④指導的立場から積極的に課題解決に取り組み、その成果を世界に発信する高度な研究能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

それぞれの専門分野で共通に必要なとなる研究・医療倫理、多職種連携、医療情報リテラシーを学ぶ共通科目（選択）を設定する。

医科学・薬科学の応用的知識や地域・世界の保健医療課題等を教授することにより、幅広い考察力、自ら多様な課題を発見する能力、発展的な研究手法や英語論文による発信方法を修得するベーシック科目（必修・選択）を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、臨床医学や創薬科学などの最新の知見を学び、分野横断的に深く考察し高度な研究を行う能力を修得する専門科目（選択・必修）を設定する。

薬科学分野の卓越した知識と見識、分野横断的な深い考察力、地域・国際・学際的視点から課題を発見し解決に向けて主導的に取り組む意欲と高い倫理観、高度な研究能力、成果を世界に発信する能力を修得する特別科目（選択必修）を設定する。本科目は講義科目としての特別演習及び研究指導科目としての特別研究で構成する。

特別科目では、自身が選択した主科目と異なる医科学・薬科学内の区分から副科目を履修し、専門分野にとらわれない幅広い視野と分野横断的な専門的知識の修得を可能とする。

医科学・薬科学両分野の幅広い専門的知識と見識を獲得するため、両分野の教員がオムニバス形式で参画する科目を共通科目及びベーシック科目等で開設するとともに両分野の専門科目を選択できるようにする。

成績評価は、主体的・積極的な授業・研究への取組及びレポートにより評価する。

学位審査は、研究指導教員等の中から選定された3名以上の審査委員で組織した論文審査委員会において公正な審査を行い、続いて医学薬学総合研究科委員会にて判定を行う。

科目体系

共通科目

研究倫理・医療倫理学B	選択
多職種連携B	選択
医療情報リテラシーB	選択
※本学前期課程修了者以外で同様の科目を未履修の場合、選択	

ベーシック科目

発展的研究方法論	必修
疫学方法特論	必修
Advanced Academic English	必修
基礎医学・薬学特論Ⅰ	いずれか選択
基礎医学・薬学特論Ⅱ	
地域医療課題特論Ⅰ	いずれか選択
地域医療課題特論Ⅱ	

専門科目

臨床医学特講	1単位選択
健康科学特講	
創薬標的評価学特講	2単位選択
神経薬理学特講	
基礎薬科学特講	
がんに対する医学・薬学アプローチ	必修

特別科目

C区分
物理・化学薬学特別演習、同特別研究
生命薬学特別演習、同特別研究

D区分
医療薬学特別演習、同特別研究
臨床・社会薬学特別演習、同特別研究

※主科目の他、副科目として特別演習を異なる区分（医系も含む）から1科目選択

医学薬学総合研究科 時間割 (令和6年度)

月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日									
日付	6限(18:00~19:30)		7限(19:40~21:10)			日付	6限(18:00~19:30)		7限(19:40~21:10)			日付	6限(18:00~19:30)		7限(19:40~21:10)			日付	6限(18:00~19:30)		7限(19:40~21:10)								
	博士前期課程	博士後課程	博士前期課程	博士後課程	博士後課程		博士前期課程	博士後課程	博士前期課程	博士後課程	博士後課程		博士前期課程	博士後課程	博士前期課程	博士後課程	博士後課程		博士前期課程	博士後課程	博士前期課程	博士後課程	博士後課程						
4/1						4/2						4/3						4/4						4/5					
4/8						4/9						4/10						4/11						4/12					
4/15						4/16						4/17						4/18						4/19					
4/22						4/23						4/24						4/25						4/26					
4/29						4/30						5/1						5/2						5/3					
5/6						5/7						5/8						5/9						5/10					
5/13						5/14						5/15						5/16						5/17					
5/20						5/21						5/22						5/23						5/24					
5/27						5/28						5/29						5/30						5/31					
6/3						6/4						6/5						6/6						6/7					
6/10						6/11						6/12						6/13						6/14					
6/17						6/18						6/19						6/20						6/21					
6/24						6/25						6/26						6/27						6/28					
7/1						7/2						7/3						7/4						7/5					
7/8						7/9						7/10						7/11						7/12					
7/15						7/16						7/17						7/18						7/19					
7/22						7/23						7/24						7/25						7/26					
7/29						7/30						7/31						8/1						8/2					
8/5						8/6						8/7						8/8						8/9					
8/12						8/13						8/14						8/15						8/16					
8/19						8/20						8/21						8/22						8/23					
8/26						8/27						8/28						8/29						8/30					
9/2						9/3						9/4						9/5						9/6					
9/9						9/10						9/11						9/12						9/13					
9/16						9/17						9/18						9/19						9/20					
9/23						9/24						9/25						9/26						9/27					
9/30						10/1						10/2						10/3						10/4					
10/7						10/8						10/9						10/10						10/11					
10/14						10/15						10/16						10/17						10/18					
10/21						10/22						10/23						10/24						10/25					
10/28						10/29						10/30						10/31						11/1					
11/4						11/5						11/6						11/7						11/8					
11/11						11/12						11/13						11/14						11/15					
11/18						11/19						11/20						11/21						11/22					
11/25						11/26						11/27						11/28						11/29					
12/2						12/3						12/4						12/5						12/6					
12/9						12/10						12/11						12/12						12/13					
12/16						12/17						12/18						12/19						12/20					
12/23						12/24						12/25						12/26						12/27					
12/30						1/1						1/2						1/3						1/4					
1/6						1/7						1/8						1/9						1/10					
1/13						1/14						1/15						1/16						1/17					
1/20						1/21						1/22						1/23						1/24					
1/27						1/28						1/29						1/30						1/31					
2/3						2/4						2/5						2/6						2/7					
2/10						2/11						2/12						2/13						2/14					
2/17						2/18						2/19						2/20						2/21					
2/24						2/25						2/26						2/27						2/28					
3/3						3/4						3/5						3/6						3/7					
3/10						3/11						3/12						3/13						3/14					
3/17						3/18						3/19						3/20						3/21					
3/24						3/25						3/26						3/27						3/28					

医学薬学総合研究科 時間割 (令和6年度)

日付	月曜日					日付	火曜日					日付	水曜日					日付	木曜日					日付	金曜日				
	6限(18:00~19:30)	7限(19:40~21:10)	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程		博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程		博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程
4/1						4/2						4/3						4/4						4/5					
4/8						4/9						4/10						4/11						4/12					
4/15						4/16						4/17						4/18						4/19					
4/22						4/23						4/24						4/25						4/26					
4/29						4/30						5/1						5/2						5/3					
5/6						5/7						5/8						5/9						5/10					
5/13						5/14						5/15						5/16						5/17					
5/20						5/21						5/22						5/23						5/24					
5/27						5/28						5/29						5/30						5/31					
6/3						6/4						6/5						6/6						6/7					
6/10						6/11						6/12						6/13						6/14					
6/17						6/18						6/19						6/20						6/21					
6/24						6/25						6/26						6/27						6/28					
7/1						7/2						7/3						7/4						7/5					
7/8						7/9						7/10						7/11						7/12					
7/15						7/16						7/17						7/18						7/19					
7/22						7/23						7/24						7/25						7/26					
7/29						7/30						7/31						8/1						8/2					
8/5						8/6						8/7						8/8						8/9					
8/12						8/13						8/14						8/15						8/16					
8/19						8/20						8/21						8/22						8/23					
8/26						8/27						8/28						8/29						8/30					
9/2						9/3						9/4						9/5						9/6					
9/9						9/10						9/11						9/12						9/13					
9/16						9/17						9/18						9/19						9/20					
9/23						9/24						9/25						9/26						9/27					
9/30						10/1						10/2						10/3						10/4					
10/7						10/8						10/9						10/10						10/11					
10/14						10/15						10/16						10/17						10/18					
10/21						10/22						10/23						10/24						10/25					
10/28						10/29						10/30						10/31						11/1					
11/4						11/5						11/6						11/7						11/8					
11/11						11/12						11/13						11/14						11/15					
11/18						11/19						11/20						11/21						11/22					
11/25						11/26						11/27						11/28						11/29					
12/2						12/3						12/4						12/5						12/6					
12/9						12/10						12/11						12/12						12/13					
12/16						12/17						12/18						12/19						12/20					
12/23						12/24						12/25						12/26						12/27					
12/30						1/1						1/2						1/3						1/4					
1/6						1/7						1/8						1/9						1/10					
1/13						1/14						1/15						1/16						1/17					
1/20						1/21						1/22						1/23						1/24					
1/27						1/28						1/29						1/30						1/31					
2/3						2/4						2/5						2/6						2/7					
2/10						2/11						2/12						2/13						2/14					
2/17						2/18						2/19						2/20						2/21					
2/24						2/25						2/26						2/27						2/28					
3/3						3/4						3/5						3/6						3/7					
3/10						3/11						3/12						3/13						3/14					
3/17						3/18						3/19						3/20						3/21					
3/24						3/25						3/26						3/27						3/28					

(新)

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻（前期課程） 生命医科学プログラム 履修モデル

○養成する人材：健康・医療関連企業での研究開発や共同研究を支える重要な一員として活躍できる
優れた生命医療科学研究者

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	6			
専門科目	人体構造機能科学特論	1		
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論			
	健康機能調節学特論			
	小計	6		
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習	2		
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			12
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計	17	2	12	

○養成する人材：地域医療機関等の臨床現場で医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた
専門職医療人

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	1		
	基礎生体科学特論	1		
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ			
小計	6			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論	1		
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
	小計	6		
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習		2	
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習	2		
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			12
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計	17	2	12	

○養成する人材：リアルワールドデータなどの医療データを応用した基礎研究を遂行できる医療データ

サイエンスに強い人材

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1~2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	6			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A	2		
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習	2		
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習		2	
	社会医学特別研究			12
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計	17	2	12	

○養成する人材：健康・医療関連企業での創薬などの研究、開発に携わる研究者及び生命科学系領域の中で
ハブとなるような優れた生命医療科学研究者

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1~2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医学・薬科学特論Ⅰ	1		
基礎医学・薬科学特論Ⅱ	1			
小計	6			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習		2	
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習	2		
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			12
	生命薬学特別研究			
医療薬学特別研究				
臨床・社会薬学特別研究				
小計	2	2	12	
合計	17	2	12	

○養成する人材：医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた専門職医療人

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	地域医療課題概論	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論	1		
	基礎医学・薬科学特論Ⅰ			
	基礎医学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	6			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論			
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論	1		
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
健康機能調節学特論	1			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習	2		
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			12
小計	2	2	12	
合計	17	2	12	

○養成する人材：健康・医療関連企業での研究開発や共同研究を支える重要な一員として活躍できる
優れた生命医療科学研究者

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	5			
専門科目	人体構造機能科学特論	1		
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論			
	健康機能調節学特論			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習	2		
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			12
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計	16	2	12	

○養成する人材：地域医療機関等の臨床現場で医療チームを支える重要な一員として活躍できる優れた専門職医療人

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論	1		
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ			
小計	5			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A	1		
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論	1		
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習		2	
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習	2		
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			12
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
臨床・社会薬学特別研究				
小計	2	2	12	
合計	16	2	12	

○養成する人材：リアルワールドデータなどの医療データを応用した基礎研究を遂行できる医療データ

サイエンスに強い人材

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医科学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医科学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	5			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A	2		
	安全科学特論			
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習	2		
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習		2	
	社会医学特別研究			12
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計		16	2	12

○養成する人材：健康・医療関連企業での創薬などの研究、開発に携わる研究者及び生命科学系領域の中で
ハブとなるような優れた生命医療科学研究者

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論			
	基礎医学・薬科学特論Ⅰ	1		
	基礎医学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	5			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論	1		
	微生物・ウイルス・免疫学特論	1		
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論			
	健康科学特論			
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
	健康機能調節学特論	1		
	小計	6		
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習		2	
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習	2		
	生命薬学特別演習			
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習			
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			12
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
	臨床・社会薬学特別研究			
小計	2	2	12	
合計	16	2	12	

医学薬学総合研究科 生命医療科学専攻（前期課程） 生命薬科学プログラム 履修モデル

○養成する人材：医療機関等の医療や生命科学系領域の中でハブとなるような優れた専門職医療人

○履修科目

区分	授業科目	1年次	2年次	1～2年次
共通科目	研究倫理・医療倫理学A	1		
	多職種連携A	1		
	医療情報リテラシーA	1		
	小計	3		
ベーシック科目	基礎的研究方法論	1		
	社会・予防医学概論	1		
	Academic English	1		
	基礎生体科学特論			
	生体分子解析学特論	1		
	基礎医学・薬科学特論Ⅰ			
	基礎医学・薬科学特論Ⅱ	1		
小計	5			
専門科目	人体構造機能科学特論			
	機能調節薬理学特論			
	微生物・ウイルス・免疫学特論			
	病理病態学特論A			
	臨床医学特論	1		
	健康科学特論	1		
	医療データサイエンス学特論A			
	安全科学特論	1		
	医薬品開発特論	1		
	最先端創薬科学特論	1		
健康機能調節学特論	1			
小計	6			
特別科目	社会医学特別演習			
	形態機能医学特別演習			
	細胞分子機能医学特別演習			
	総合医療医学特別演習			
	器官病態内科学特別演習			
	器官病態外科学特別演習			
	物理・化学薬学特別演習			
	生命薬学特別演習		2	
	医療薬学特別演習			
	臨床・社会薬学特別演習	2		
	社会医学特別研究			
	形態機能医学特別研究			
	細胞分子機能医学特別研究			
	総合医療医学特別研究			
	器官病態内科学特別研究			
	器官病態外科学特別研究			
	物理・化学薬学特別研究			
	生命薬学特別研究			
	医療薬学特別研究			
臨床・社会薬学特別研究			12	
小計	2	2	12	
合計	16	2	12	